

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00387

研究課題名（和文）マルチメディア・エディションによるシェイクスピア上演研究・教育の推進

研究課題名（英文）The Development of Shakespeare Performance Studies and Education through  
Multimedia Edition

研究代表者

末松 美知子 (SUEMATSU, Michiko)

群馬大学・情報学部・教授

研究者番号：90216276

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、先行研究で構築したウェブ・アーカイブ Asian Shakespeare Intercultural Archive (A|S|I|A)に、上演作品をテキストのように読み解くための「マルチメディアエディション」を追加し、ウェブ・アーカイブの進化を目指した。具体的には、上演作品映像をテーマ別に分類して作品解説や注釈等をつけ、上演映像から直接それらにアクセスできるオンラインプラットフォームの準備を進めた。また、海外研究者たちとのネットワーク作りをさらに進め、国際共同発表や新たな教育プログラムの構築を行い、シェイクスピア比較上演論分野におけるデジタルヒューマニティーズの進展に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究遂行中に起こった新型コロナウイルス感染症の拡大は、教育・研究のオンライン化を一挙に進め、シェイクスピア上演研究・教育においてもA|S|I|Aと「マルチメディアエディション」の需要が一気に高まった。オンラインの作品映像から作品解説、注釈、関連論文等を容易に利用できる「マルチメディアエディション」は、実際にアジアの上演を観ることのできない世界のシェイクスピア研究者に上演作品理解の機会を提供し、さらにデジタル時代にふさわしい新たな演劇研究・教育手法の探究に貢献した。「マルチメディアエディション」は、オンラインの自由さと拡張性を演劇研究の批評性に結びつける現代に必須のリソースとして意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to evolve the Asian Shakespeare Intercultural Archive (A|S|I|A), a web-based archive created in previous studies, by adding a 'multimedia edition,' in which users can analyse Shakespeare performances as if they were printed texts. Specifically, the multimedia edition categorized the existing collection of performances by themes, created commentaries and annotations, and prepared an online platform that allows users to access these contents directly from performance videos. In addition, networking with overseas researchers was further promoted in joint presentation at international conferences and a new online course, which contributed to the advancement of digital humanities in the field of comparative Shakespeare studies.

研究分野：シェイクスピア上演研究

キーワード：シェイクスピア アジア 上演研究 国際研究者交流 ウェブ・アーカイブ メディア 比較演劇

## 1. 研究開始当初の背景

先行研究で構築したウェブ・アーカイブ Asian Shakespeare Intercultural Archive (A|S|I|A)ログイン登録の調査結果によると、本研究を開始する前年の2018年9月にA|S|I|Aを授業で利用した高等教育機関は北米、英国、オーストラリア、韓国、中国、台湾、日本など世界で70校以上に及んでいた。授業での利用に関する質問やコメントも増加しており、高等教育機関の授業に組み込んだ形でウェブ・アーカイブを利用する状況は整いつつあったと考えられる。また、こうしたオンラインでのフィードバックや国際学会等で直接寄せられた反応から、A|S|I|A構築当初考えていた以上に、欧米研究者のアジアのシェイクスピア上演への関心が高いこともわかってきた。しかし繰り返し指摘されるのはA|S|I|Aの利用しにくさである。A|S|I|Aは上演作品全編の映像に切り替え可能な4カ国語の字幕をつけているが、忠実な台詞の翻訳のため画面に占める字幕の割合が大きく、その分映像画面が小さい。アジアの文化や生活の様子、演劇様式になじみのない利用者には、小さな画面では何が表現されているのか把握しにくい場合がある。また、作品の上演情報データは、利用者が関心を持つキーワードから自由に検索してリストに表示していく形を取っているため、適切な情報が探し出しにくい一面がある。このような利用者の反応に対応するため、欧米の研究者や学生によりなじみのある演劇テキスト研究のフォーマットをウェブ・アーカイブに導入することでウェブ・アーカイブの改善を目指すこととした。この改善に加えて、教育分野でのA|S|I|A活用を促進するため、実際の研究事例を学生に示す教育プログラムの実施も併せて進めることとした。

## 2. 研究の目的

本研究では、ウェブ・アーカイブA|S|I|Aの活用推進のため、印刷版の注釈付きテキスト・エディションと同様のコンセプトにより、オンラインの「マルチメディアエディション」を作成する。具体的には、A|S|I|Aに所蔵されている日本、中国、台湾、韓国、シンガポール、マレーシア等で上演された62作品と新たに映像を取得した作品の中から上演作品を選んで、作品分析の鍵となる次の4つのテーマごとにグループ化し、各上演作品の全編映像(切り替え可能な英語、日本語、中国語、韓国語の字幕付き)、作品の導入的解説、演技様式や文化的背景等に関する詳細な注釈、テーマの観点から書かれた論文、作品に関する基本情報データ等のコンテンツを提供する。

4つのテーマ：

- ・アジアにおけるシェイクスピア上演と霊的世界
- ・アジアにおけるシェイクスピア上演とジェンダー
- ・アジアにおけるシェイクスピア上演と子供・若者たち
- ・アジアにおけるシェイクスピア上演と身体性

このグループ化により、異なる国や文化が生み出したシェイクスピア上演作品の共通性・特異性を探る比較研究が容易に行えることを目指す。また、上演映像から自由に様々なコンテンツにアクセスすることで、能動的でインタラクティブな研究・学習を可能とする。「マルチメディアエディション」を用いれば、注釈や関連する論文を参照しながらテキストを読み解いていく従来の演劇研究の基本姿勢を生かしつつも、その中核に上演映像を置き、台詞(テキスト)、注釈、作品解説、論文、上演データ等のマルチメディアコンテンツから複合的に上演を読み解くオンラインでの研究が可能となる。

また、すでに日本、韓国、シンガポールで開始しているA|S|I|Aを利用した教育プログラムをさらに発展させるため、シンガポール国立大学とバーミンガム大学シェイクスピア研究所が共同で新たに開講するオンラインコース(修士課程)に協力する。

比較演劇研究の方法論や理論とオンラインの操作性を兼ね備えた「マルチメディアエディション」の追加により、A|S|I|Aを、上演映像「確認」という従来のウェブ・アーカイブ利用から一歩進んだ本格的比較演劇研究・教育のツールへと発展させ、デジタル時代に即した比較演劇研究と教育の推進に貢献する。

## 3. 研究の方法

### (1) 国際共同プロジェクトチームによる共同構築作業

アジアのシェイクスピア上演ウェブ・アーカイブに「マルチメディアエディション」を追加するという大規模なプロジェクトを一国の研究者のみで実行することは困難であるため、アジア演劇のプロジェクトを計画中の次の機関に属する研究者達と協力し、国際共同プロジェクトとして本研究を進めた。

- ・シンガポール国立大学（シンガポール）
- ・順天郷大学校（大韓民国）
- ・バーミンガム大学シェイクスピア研究所（英国）
- ・シラキューズ大学（米国）

毎月プロジェクトチームの各国研究者とオンラインミーティングを行い、具体的な作業進捗状況や新たな方針を定期的に確認・検討しながら作業を進めた。「マルチメディアエディション」の4つのテーマごとにリーダーを決め、リーダーを中心に各作品の注釈（作品の解説、演技様式や文化的背景等に関する詳細な注釈）や序論等の作成を行なった。

またインターフェイス案の検討も終了し、オンラインでの出版準備を進めている。

## （2）研究成果の国際的発信

国内外の学会や論文等で、A|S|I|A「マルチメディアエディション」構築の進行状況を報告するとともに、ウェブ・アーカイブを利用した上演研究の意義や問題点、活用事例等について報告と意見交換を行なった（詳細は4の研究成果の項参照）。

## 4. 研究成果

### （1）「マルチメディアエディション」の作成

4つのテーマで上演作品を分類し、作品映像から台詞（テキスト）、注釈、作品解説、論文、上演データ等にアクセスできる「マルチメディアエディション」の作成を進めた（オンラインでの公開時期は未定）。テーマごとの主な上演作品は次の通りである。

- ・アジアにおけるシェイクスピア上演と霊的世界
  - 『ク・ナウカで夢幻能なオセロー』（日本）
  - 『リユーとぴあシェイクスピアシリーズ：オセロ』（日本）
  - 『Hamlet Cantabile』（韓国）
  - 『King Uru』（韓国）
  - 『Kingdom of Desire』（中国）
  - 『Titis Saki』（マレーシア）
- ・アジアにおけるシェイクスピア上演とジェンダー
  - 『スタジオライブ：十二夜』（日本）
  - 『リユーとぴあシェイクスピアシリーズ：リア王』（日本）
  - 『Theatre Moollec: Lady Macbeth』（韓国）
  - 『Yohangza: Twelfth Night』（韓国）
  - 『Theatre Works: Lear』（シンガポール）
- ・アジアにおけるシェイクスピア上演と子供・若者たち
  - 『子供のためのシェイクスピアシリーズ：シンベリン』（日本）
  - 『Paper Monkey: Nonya Nightingale』（シンガポール）
  - 『KL Shakespeare Players: Macbeth』（マレーシア）
  - 『Creative Troupe Dajeongdagam, Roderigo』（韓国）
- ・アジアにおけるシェイクスピア上演と身体性
  - 『Shigang Mamas: Pear Blossoms』（台湾）
  - 『Nine Years Theatre: Lear is Dead』（シンガポール）

### （2）研究成果の国際的発信と国際的なネットワーク

国内外の学会等でA|S|I|A「マルチメディアエディション」構築状況や研究事例を報告するとともに、ウェブ・アーカイブを利用した上演研究の意義や問題点について意見交換を行ったほか、「マルチメディアエディション」のオンライン出版について出版関係者との交渉も進めることができた。

### ・2021年7月

第11回国際シェイクスピア学会で、パネル・セッション「Circulating Shakespeare Performances within the Digital Realm」及びワークショップ「A|S|I|A 活用に関するプレゼンテーション」を海外研究協力者と協力して主催し、コロナ禍という状況も踏まえて、デジタル時代のシェイクスピア上演研究と教育について研究報告と意見交換を行なった。

・2022年7月

バーミンガム大学シェイクスピア研究所主催の International Shakespeare Conference: Shakespeare, the Digital, and the Virtual では、A|S|I|A と MIT Global Shakespeares の2つのウェブ・アーカイブ作成チームが招聘され、パネル・セッション「Archiving Shakespeare in the Age of the Pandemic」を行なった。他のウェブ・アーカイブとの比較により、このプロジェクトの独自性、今後の修正点を確認するとともに、新たな研究協力者を募ることができた。

・2022年3月及び2023年3月

バーミンガム大学シェイクスピア研究所とシンガポール国立大学共同開講のオンラインコース「Shakespeare in Asia」（修士課程）で、海外研究協力者と連携してA|S|I|A を用いた授業を実施し、各国の院生からのフィードバックを参考に「マルチメディアエディション」の作品解説や注釈の見直しを行なった。（担当授業：Shakespeare and Traditional Forms II: Noh）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 末松美知子	4. 巻 28
2. 論文標題 デジタル化とシェイクスピア上演・上演研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群馬大学社会情報学部研究論集	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SUEMATSU Michiko	4. 巻 58
2. 論文標題 Othello, dir. by Sonsho Inoue	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Shakespeare Studies	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 SUEMATSU Michiko
2. 発表標題 Alternative Shakespeare in Contemporary Japanese Theatre
3. 学会等名 Huddersfield University Global Shakespeare Seminar（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 SUEMATSU Michiko
2. 発表標題 Going beyond Linearity: Performance Analysis Using Web Archive A S I A
3. 学会等名 International Shakespeare Conference 2022（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 末松美知子
2. 発表標題 上演でたどる日本のシェイクスピア受容半世紀
3. 学会等名 日本英文学会第93回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SUEMATSU Michiko
2. 発表標題 Shifting Landscape of Global Shakespeare Audience in the Age of Digital Circulation
3. 学会等名 The 11th World Shakespeare Congress（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SUEMATSU Michiko
2. 発表標題 Shakespeare Performances as an Intersection of Generations
3. 学会等名 The 4th Asian Shakespeare Association Conference（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 SUEMATSU Michiko
2. 発表標題 Alternative Shakespeare in Contemporary Japanese Theatre
3. 学会等名 Huddersfield University Global Shakespeare Seminar（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

A|S|I|A (Asian Shakespeare Intercultural Archive)  
<http://a-s-i-a-web.org>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ヨン リーラン  (YONG Li Lan)		
研究協力者	リー ヒョンウー  (LEE Hyon-u)		
研究協力者	ドブソン マイケル  (DOBSON Michael)		
研究協力者	カラハン ディンプナ  (CALLAGHAN Dympna)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
シンガポール	シンガポール国立大学			
韓国	順天郷大学校			
英国	バーミンガム大学シェイクスピア研究所			